



授業形態	自校	他校	巡回
	個別指導		グループ指導

実態:小学校 低学年

・キ(例:キリンと子リンなど)、ケ(例:とけい→とていなど)の発音に誤りがある。

長期目標

・キ、ケなどのK音の正しい発音を身に付ける。  
・発音に気を付けて音読したり、話をしたりする。

通級での指導・支援

発音に気を付けて音読したり、話をしたりできるように

○ 自分の様子や気持ちを伝える。

- ・授業や休み時間にしたこと  
をワークシートに書き、発表  
する。
- ・グループ内でお互いに聞き  
合う。

どんなことをしましたか?おもいだしてかこう わすれたとき、わからないときは「?」や「X」と書いていいです		
① 1じかんめの べんきょう( )	😊 げんき	😞 つかれた
どんな べんきょう?		
② 2じかんめの べんきょう( )	😊 げんき	😞 つかれた

ワークシート 

○ 正しい発音を身に付ける。

- ・正しい音を聞き分ける。
- ・カラスのイラストを見て、カラスの鳴きまねをし、  
【ka】の発音を練習する。
- ・【ka】の発音を含む有意味語を、イラストカードを見て練習する。  
かめ、かに、かば、かげ、しか、さか、なか、いか等。  
『シリーズきこえとことばの発達と支援  
特別支援教育における構音障害のある子どもの理解と支援』  
『言語聴覚療法シリーズ7 改訂 機能性構音障害』より



○ 気持ちや体をほぐす。

- ・トランポリンを跳んだりバドミントンをしたりする。
- ・トランプなどのカードゲームをする。

通常の学級での指導・支援

- ・学級の子どもたちに、本児が K 音  
の発音について練習中であることを  
伝える。(2-5-1 参照)
- ・音読や会話につまったら、本児に  
はゆっくり、焦らずに話したり、肩  
の上げ下げなどして緊張をほぐす  
ように促したりする。他児にも静か  
に待つよう促す。

通級での変容

- \* カ行の発音を聞き分けられるようになって、正しく発音できることが増えた。
- \* 家族の中でも、会話をする際には兄弟たちから指摘されるのを気にしていた。そのため引っ込み思案だったが、練習して自分の思いを言えるようになってきた。

通常の学級での変容

- \* 授業中に挙手する機会が増えた。指名されても堂々と言えるようになってきた。



授業形態	自校	他校	巡回
	個別指導		グループ指導

## 実態:小学校 低学年

- ・サ行がシャ行に置換する。
- ・サ行の付く言葉を表記するときに、タ行と誤って書くことがある。

## 長期目標

- ・サ行の音を正しく発音できる。
- ・サ行の言葉について、ひらがなで正しく表記する。

## 通級での指導・支援

## サ行の音を正しく発音できるように

## ○ 舌の体操をする。

- ・舌の力を抜いて、平らな舌を作る。  
舌の上にポーロをのせて、30秒停止する。
- 舌の上にポーロをのせて、前後左右に舌を動かす。  
舌の上に何も置かないで脱力した舌を作り、30秒停止する。



## ○ 風の音のまねをする。

- ・舌先と上歯茎裏の隙間から息を出す。  
舌先と上歯茎でストローを挟み、息を出す。  
ストローを挟んだまま息を吹き、紙製の的を倒す。  
ストローを挟んだ口形を保ったままストローを少し前へ出し、  
息を舌先と上歯茎裏の隙間から吹いて、ストローの笛を鳴らす。



紙製の的

## ○ 【su】の構音練習をする。

- ・【su】の単音練習をする。  
風の音(s)を出しながら、母音(u)を付け、【su】を出す。
- ・「す」の単語練習をする。  
「す」と母音を組み合わせて、無意味音節の練習をする。(「すあ」「すい」…)
- ・語頭・語尾・語中に「す」が付く単語を練習する。

## ○ 「す」の音の弁別をする。

- ・「す」の付く言葉を聞き取る。  
「す」と「しゅ」の付く言葉を聞いて、「す」の付く言葉が聞こえたら、「○」の札を挙げる。
- ・「す」の付く言葉を探す。  
イラストを見て、「す」の付く言葉を探す。「す」の付く言葉を思い出して、書き出す。

## 通常の学級での指導・支援

- ・発音に誤りがあるために、練習中であることを周りの児童に知らせ、からかったり、指摘したりしないように理解を促す。(2-5-1 参照)

- ・正しい発音ができるときには、学級担任からもがんばりを認め、本児が正しく発話する意欲や自信をもてるようにする。

## 通級での変容

- \* 単音→単語→文章→音読と構音訓練が進み、会話中でもサ行の構音が改善してきた。
- \* ときどき表記の誤りが見られることもあるが、自分で気付いて訂正できた。

## 通常の学級での変容

- \* 自信をもって発表する姿が見られるようになった。



授業形態	自校	他校	巡回
	個別指導		グループ指導

## 実態:小学生

・一音一音の切れ目がなく、声が小さいなど不明瞭で聞き取りにくい話し方をする。

## 長期目標

・舌を滑らかに動かせるようになる。  
・大きな声で、一音一音(1モーラずつ)はっきり分かるように発声できるようになる。

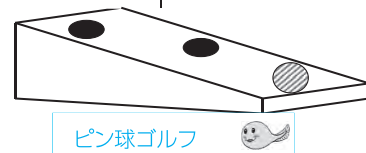
## 通級での指導・支援

## 舌を滑らかに動かせるように

- □の体操をする。  
□を大きく開けたり閉じたりする。あごの動きを感じられるよう耳の下に指を当てて行う。
- 舌の脱力練習をする。  
「アッカンベー」のように舌を出す。その時に舌に力が入って明太子のようになっている場合は、ぺたんこの舌になるように力を抜く。鏡を見ながら力を抜いた感覚を感じる。脱力できるようになれば、脱力した舌を出した状態で母音を言う。
- 舌先の体操1をする。  
左右の頬の裏を舌先で押す、左右の口角に舌先あてる、上唇・下唇を舌先で舐める、を繰り返し行う。
- 舌先の体操2をする。  
炭酸せんべいのような薄いせんべいの真ん中を舌先で舐めて穴をあける。舌先にラムネの粒をのせてそれを上前歯の裏に付け、その状態でスーッと息を出す。

## はっきり発音ができるように

- 「パ・タ・カ」の練習をする。  
・「パ」「タ」「カ」を大きな口を開けてゆっくりはっきり言う。できるようになってきたらスピードを速くする。  
・「パタカ」を一音一音の口形・舌の位置と動きを確認しながらゆっくり言う。はっきり言えるようになってきたらスピードを速くする。
- 息でピン球ゴルフをする。  
図のような穴の開いた斜面の下からピンポン玉を吹いて転がし、穴に入れる。息の強さや吹く長さを調整する。
- モーラすごろくをする。(サイコロの代わりに絵カードを使ったすごろく)
  - ①絵カードを四つの山に分け、裏向けにして置く。
  - ②選んだ山の一番上のカードを取る。その絵の名前のモーラ数だけ進む。例えば「救急車」の絵の場合は、「きゅ・う・きゅ・う・しゃ」と1モーラずつ区切りながらはっきりとした発音で唱えながら進ませる。



ピン球ゴルフ

## 通常の学級での指導・支援

- ・大きな声が出るような姿勢で音読や発表ができるようにする。
- ・「パタカ」など舌の動きを滑らかにする練習を学級のみんなで行う。
- ・教科書などを音読する場合、読むときの切れ目にスラッシュ(/)などを入れて読みやすくする。

## 通級での変容

\* 発音が明瞭になり、聞き取りやすくなった。

## 通常の学級での変容

\* 積極的に発言するようになった。